

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	6
サポートクラス	セージ	Lv.1:	セージ	性別	女性
称号クラス				年齢	自称17歳
種族	エルダナーン			境遇	天啓
出自 (効果)	学者			目標	強制

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	8	9	20	12	17	7
ボーナス	2	2	3	6	4	5	2
クラス修正	0	0	0	2	2	1	1
他修正							
能力値	2	2	3	8	6	6	3

HP	46
MP	79
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	赤き斜陽の剣	至近	0	5	0	0	0	-1	0
左手	おしゃれの盾		0	0	0	3	0	-1	0
頭部									
胴部	イレイションローブ				-2	2	-2	-2	-3
補助									
装身具	奥義書								
能力値			2	0	3	0	6	9	7
スキル									
その他									
総計(右)			2	5					
総計(左)			2	0	1	5	4	5	4
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	2			2	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	8	6		14	+ 3 d
アイテム鑑定	8	6		14	+ 3 d
魔術判定	8	6	1	15	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定	2			2	+ d

所持品	
冒険者セット	
バックパック	
ベルトポーチ	
ポーションホルダー	
└ ハイMPポーション	
└ MPポーション*2	
野菜	
グリモア	
タリスマン	
未習得：ファミリア	

現在重量： 7

最大重量： 14

所持金： 3660

預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
イモータリティ	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 《トリビアリスト》を取得する								
マジシャンズマイト	2	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果： 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
コンセントレイション	★	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果： 魔法攻撃命中+1d								
フォースプリンガー	4	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果： 無属性攻撃ダメージ+SL×4								
コンコードダンス	★	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果： 対象：場面（選択） 射程：視界の対象にエネミー識別を行える。								
ハイウィズダム	3	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果： 知力判定の達成値に+SL×2								
トリビアリスト	★	6	パッシヴ	-	自身	自動成功	1/シーン1回	
効果： 判定を知力判定で代用								
エンサイクロペディア	★	-	セットアップ	-	自身	自動成功		
効果： セットアップで識別を行える								
マジックブラスト	1	3	ムーブ	-	自身	自動成功		
効果： 分類：魔術のメジャーアクションの対象をSL×2に変更する								
ハイサモナー	★	3	マイナー	-	自身	自動成功		
効果： そのメインプロセス中サモナースキルに対するリアクション判定に-1 d								
アニマルパクト	★	-	マイナー	-	自身	自動成功	1/シナリオ	
効果： そのメインプロセスに行うタイミング：メジャーのサモナースキルを対象：場面選択、射程：視界に変更								
ビーストベイン	★	4	メジャー	20	単体	魔術判定		
効果： 2 d 6 + 1 0 (4d6+37) の無属性魔法ダメージ。対象が動物、魔獣、霊獣の場合は魔法防御力0として扱う								
リゼントメント	★	-	効果参照	-	自身	自動成功	1/シナリオ	
効果： 魔法攻撃を単体化、ダメージ+[CL*10]								
マジックフォージ	2	3	DR前	-	自身	自動成功	1/シーン1回	
効果： 魔法攻撃ダメージ+[SLx2d]								
	1							
効果：								

■経歴

長いこと自宅で引きこもっていたがらしい感じのエルダナーン。父母の遺した魔法の品を利用しつつただらだと本と読みながら日々を過ごしていたある日の晩、神の声を聞いた。「汝我が加護を以って敵対種を排除せよ」以来、その声は毎晩夢に現れ神判を下す。それに向かう行動をすれば快適な眠りを、そうでなければ翌日酷い頭痛と虚脱に襲われるのである。そうでない、というのには、怠惰に過ごす事も含まれるのだからたまったものではない。丁度父母の遺品もそろそろなくなり、家も差し押さえられる事態となったため、重い身体を動かしかたなく冒険者となることを決意したのである。

しかし、一度目の冒険で経験のなかったジゼルは致命的な失敗をし、魔物を前に死を覚悟する事態となる。そこに現れたのはレオナルド脚。一刀の下に魔物を切り捨てると、ジゼルを救い出したのだ。更に、街へと連れ帰られる途中、最早希望もなくなってやけになり、自らの境遇を悲劇のヒロインよろしく都合の良い部分だけ語るジゼルに、レオナルド脚は衝撃を受け、なんだかちよっと小動物を見るような表情をした後、住む場所を与え、自分に仕える事を命じたのだった。

以降、頭痛のことを考慮したレオナルド脚は、身の回りの世話だけではなく、レオナルド脚の依頼を受けた冒険者についていかせ、持ち前の知力・魔力を使ってこれを支援する仕事を与えていった。これは当初、ジゼルを愛玩動物の一つのように感じてライフワークを与えたと過ぎぬものだったが、結果としてジゼルは意外と成長し、やっとこ支援や攻撃魔法も覚え、冒険者の一員として仕事もできるようになっていくのである。

なお、レオナルド脚改めレオ様の趣味も割りりと理解できてきた模様。レオ様がどんなに変な趣味の持ち主であっても、自分はそれで助かったのだし、できるだけ彼が喜ぶようにしてあげよう。そんなことを考えていたときに、見物小屋に妖精が捕まったという噂が耳に飛び込んできたのである。

